



# Business Report

第75期 報告書

2018年10月1日～2019年9月30日



プロセステクノロジーで未来を拓く

**ホソカワミクロン** 株式会社



## 上半期の好業績が下半期の景気後退局面を補い 通期営業利益は高水準を維持しました。

株主の皆様には、平素より当社グループの事業運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2017年10月から“グローバルマーケティングの推進”をキーワードに第16次中期3カ年経営計画を進めております。2020年度は、その最終年度にあたり次期中期計画に向けさらに推し進めるべくグループ一体となりブランド力と収益力の強化に邁進しております。

**Q** 事業概況と当期業績のポイントについて  
教えてください。

**A** 下半期以降は受注環境が減速しましたが、  
豊富な期初注残と上半期の好業績により  
利益は計画値を上回りました。

米中貿易摩擦やBrexit問題など、世界的に経済環境は不透明感を増し、外需減速に加え、設備投資意欲も低下基調にある中、当社において2019年度は、大型

案件を中心に計画の遅延や中止が散見されました。特に過年度まで順調に業容を拡大してきたプラスチック薄膜部門において、下半期以降は、受注環境の減速が顕著になりました。

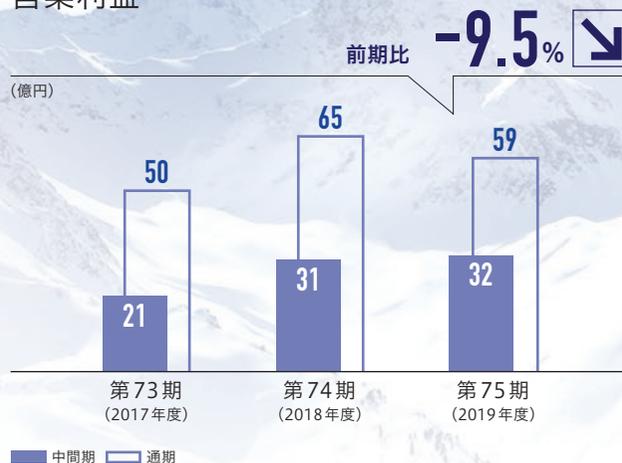
売上高は、期初の受注残高が高水準だったこともあり、対前期比2.6%減の553.8億円と小幅減収に留まりました。なお、為替レート変動による邦貨換算影響額は、受注高で約18億円、売上高で約17億円の目減りと推定

### 財務ハイライト

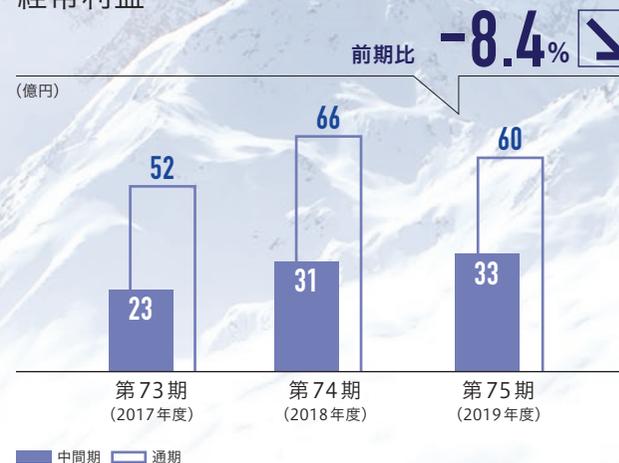
#### 売上高



#### 営業利益



#### 経常利益



され、売上実績が公表値を下回った主な要因は、為替レートが期初想定より対ユーロ、ドルにおいて円高に振れたことによります。

利益面では、前年度に記録した過去最高益の更新はなりませんでしたが、営業利益は59.2億円と高収益を維持しました。

### Q 株主還元と配当政策について教えてください。

#### A 経営の効率化を進め、引き続き安定的な利益配分を実施します。

配当金は従来通り、配当性向30%を目標に安定した利益配分の維持を念頭に置いており、1株当たりの配当金額の増加に努めます。フリーキャッシュフローを重視し、長期的視点に立った利益配分を行ってまいり

ます。当方針を踏まえ、当期の1株当たりの期末配当金は55円とし、実施済みの中間配当金55円と合わせて年間110円とさせていただきます。

### Q 2020年度の取り組みについて教えてください。

#### A グループカンパニーの強みを最大限に活かすマーケティング体制の確立を目指します。

第16次中期3カ年経営計画の最終年度となる2020年度は、各グループ会社が得意とする機器や市場を定めた販促活動など、次期中期計画を見据えたグローバルマーケティングの基盤を確立し、グループシナジー効果の創出を図ってまいります。また、海外販売子会社の設立により、海外地域における拡販体制の確立、顧客満足度の向上を目指します。そして当社製品・サービス

を続けてご利用いただくために、市場の要求に応える新製品を開発し、投入するとともに、産業向けIoT(IIoT<sup>※</sup>)技術を活用してハードとソフトの両面からお客様をサポートするトータルソリューションビジネスに取り組んでまいります。

※ IIoT: Industrial Internet of Things 製造業における、モノのインターネット

株主の皆様には、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役会長 兼 社長  
代表執行役員

細川 悦男

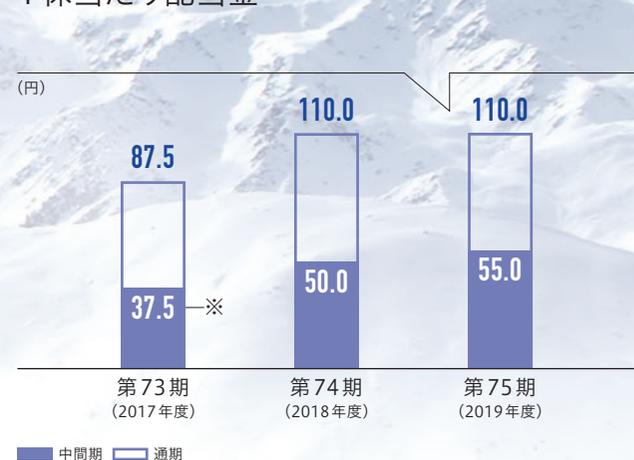
親会社に帰属する当期純利益



総資産・純資産



1株当たり配当金



※2017年4月1日、普通株式5株を1株とする株式併合を実施。株式併合前の配当金については、併合後の基準にて換算し、記載しております。

## 粉体関連事業

さまざまな産業分野で用いられる粉状の原料や製品について、砕く、大きさ別に分ける、混ぜる、乾かすなどの加工を行う粉体処理装置、環境保全や製品捕集に用いる集じん装置、医薬品の開発・製造時に作業者を保護するケミカルハザード防止装置の開発・製造・販売およびシステムエンジニアリングを行う事業です。

また、ナノ複合粒子技術を応用した新素材や化粧品・育毛剤などの開発・製造・販売・受託研究を行うマテリアル事業、材料の加工を請け負う受託加工事業も当事業の一翼を担っています。



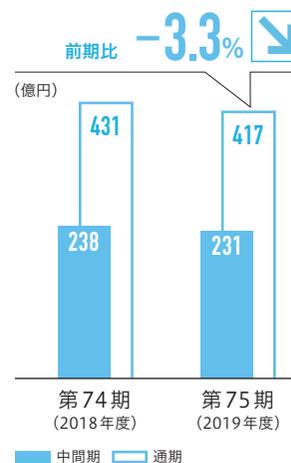
### 業績の POINT

日本・アジア：電子材料、樹脂、医薬向けが牽引  
 アメリカ：プリント基板リサイクル用の大型粉砕機  
 欧州：ロシア、台湾、中国向けミネラル用粉体製造装置

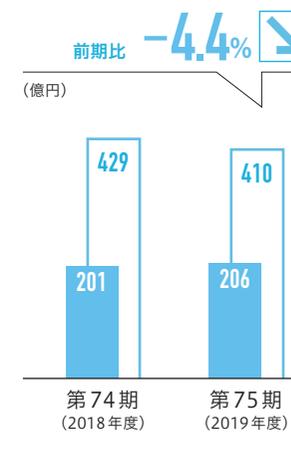
売上構成比

74.1%

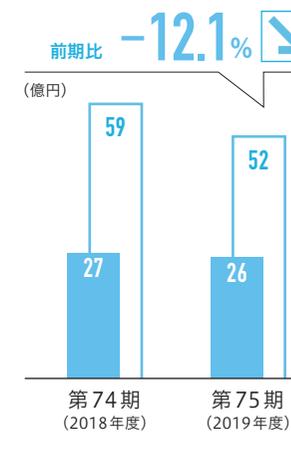
受注高



売上高



営業利益



## プラスチック薄膜関連事業

食品包装や電子機器類保護に用いる多層構造の高機能フィルム製造装置の開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。当社は、インフレーション法\*によるプラスチックフィルム製造装置の専門ブランドとして、世界で広く認知されています。

\* 特性の異なる各種樹脂を円筒状に多層構造に押し出し、その中に空気を吹き込んで膨らませてフィルムをつくる製法



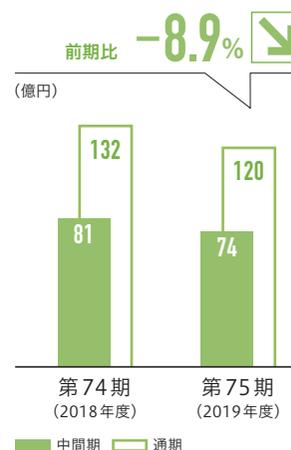
### 業績の POINT

- 3層以上の高機能多層フィルム向けが堅調
- ロシア、ポーランド、中国などに販路拡大
- 既存装置の更新と増設が業績を牽引

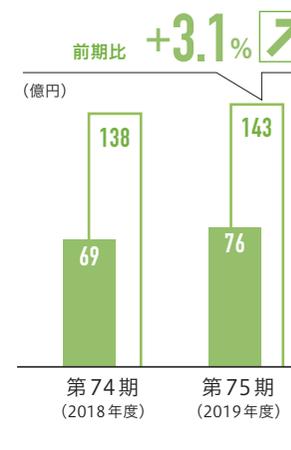
売上構成比

25.9%

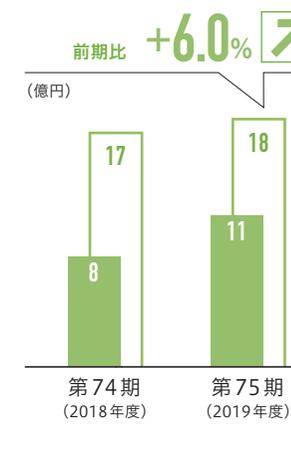
受注高



売上高



営業利益





ホソカワの「粉体技術・プラスチック薄膜技術」がさまざまな産業を支えています。

ものづくりには複数の工程があり、原料、中間工程、最終製品のいずれかの工程で粉の状態が存在します。

当社の技術や製品はものづくりに不可欠な存在として、世の中の暮らしを支えています。

 <p><b>自動車</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タイヤ</li> <li>• モータ</li> <li>• リチウムイオン電池</li> </ul>	 <p><b>情報機器</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リチウムイオン電池</li> <li>• LED</li> <li>• 電子回路</li> </ul>
 <p><b>日用品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙おむつ</li> <li>• 化粧品</li> <li>• トナー</li> </ul>	 <p><b>合成樹脂</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エアバッグ</li> <li>• 生分解性樹脂</li> <li>• PETボトル</li> </ul>
 <p><b>医薬品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注射剤</li> <li>• OD錠(口腔内崩壊錠)</li> <li>• 粉末吸入剤</li> </ul>	 <p><b>食品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• でん粉</li> <li>• おから</li> <li>• カカオ</li> </ul>
 <p><b>建築材料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 充填剤</li> <li>• 超微粉セメント</li> <li>• 石膏</li> </ul>	 <p><b>プラスチック薄膜</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 包装フィルム</li> <li>• 食品用バリアフィルム</li> <li>• 電子機器保護フィルム</li> </ul>

[基本方針] グループ一体となったグローバルマーケティング推進による  
ブランド力と収益力の強化

第16次中期3カ年経営計画 (2017年10月～2020年9月)

基本施策と進捗

グローバルマーケティングの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル拡販戦略の策定</li> <li>● 注力市場へのアプローチとグループシナジー創出の検討</li> </ul>
アフターセールス、受託加工事業の拡大 および顧客満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 粉体技術総合力でサービス・部品販売を強力推進</li> <li>● ブラジルに受託加工の合併会社を設立、事業拡大を図る</li> </ul>
グループ戦略の構築・遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日欧米のグループ連携で販売活動を推進</li> <li>● タイ販売子会社設立による東南アジア地域のビジネス強化</li> </ul>
新製品開発と製品改良による 高付加価値化とコストダウンの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 性能向上とコストダウンを実現する新製品開発</li> <li>● IIoT技術の開発プロジェクトを推進</li> </ul>
グループ事業運営の最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪工場建設による作業環境改善、業務効率向上</li> <li>● ロジスティックセンター建設(ドイツ)による物流の最適化</li> </ul>

年度	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	為替レート	
					ドル	ユーロ
2019年度(実績)	553億円	59億円	60億円	41億円	110円	124円
2020年度(計画)	545億円	50億円	50億円	33億円	105円	120円
2020年度(当初)※	560億円	56億円	56億円	39億円	110円	125円

※ 中期3カ年経営計画策定時(2017年10月)

タイに販売子会社  
Hosokawa Micron  
(Thailand) Co., Ltd. を設立

THAILAND

東南アジア市場戦略の一環として、2019年10月、タイの首都であるバンコクにホソカワミクロンタイを設立いたしました。成長著しい東南アジアを重要市場と位置付け、同地域での粉体関連装置およびシステムの販売、部品・修理・改造などのアフターセールスの体制を強化し、現地のお客様のニーズに密着した、迅速な営業展開を推進してまいります。

高付加価値産業の育成を目指すタイ政府の経済・投資政策を踏まえ、化学、樹脂、食品などの分野、さらには医薬品や自動車関連市場へもビジネスを展開すべく、より競争力の高い装置・プロセス技術の提供により当社製品・技術力の浸透を図り、事業拡大に繋げていく方針です。

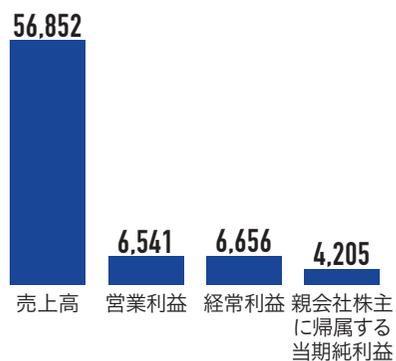


「ホソカワミクロン タイ」の開所式

## 損益計算書の概要

(百万円)

前期 (2017年10月1日～2018年9月30日)



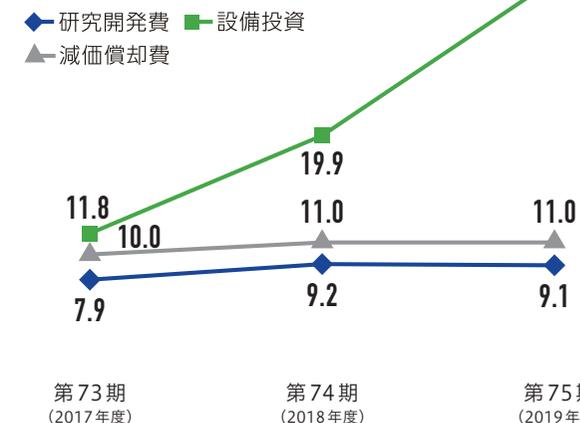
今期 (2018年10月1日～2019年9月30日)



**Point ①** 営業利益  
減収により減益ながら高水準を維持

## 研究開発費・設備投資・減価償却費の推移

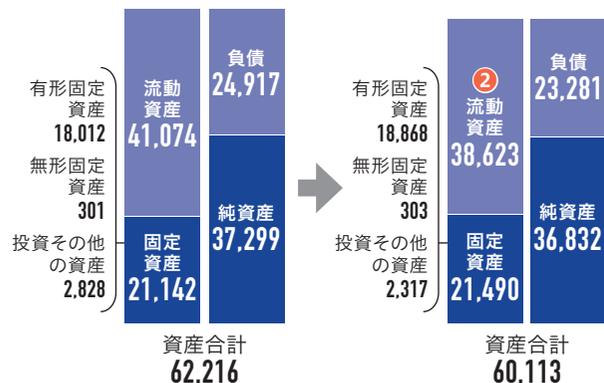
(億円)



## 貸借対照表の概要

(百万円)

前期末 (2018年9月30日現在) 今期末 (2019年9月30日現在)



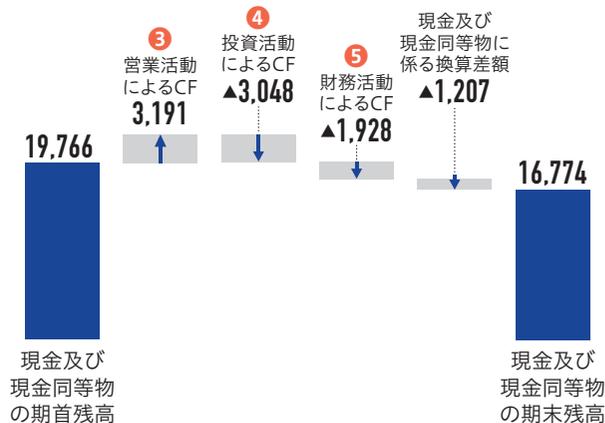
**Point ②** 流動資産  
主に設備投資等により現金及び預金が減少

**Point ③** 営業活動によるCF  
主に税金等調整前当期純利益の計上による

## キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)

今期 (2018年10月1日～2019年9月30日)

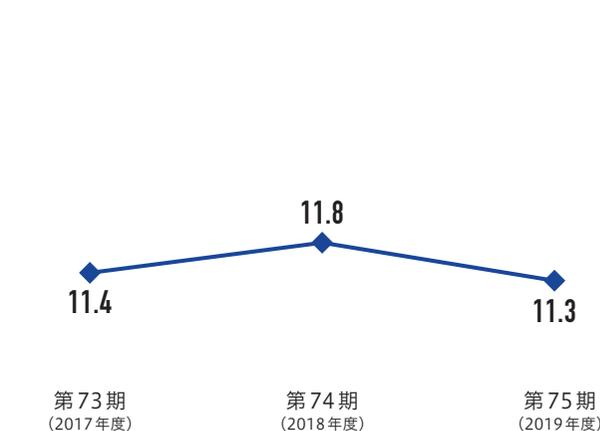


**Point ④** 投資活動によるCF  
主に有形固定資産および有価証券の取得による

**Point ⑤** 財務活動によるCF  
主に配当金の支払いおよび自己株式の取得による

## ROE(自己資本利益率)の推移

(%)



※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債は双方を相殺して表示することから、変更を行う前と比べて資産合計と負債合計はそれぞれ54百万円減少しております。

# 株式状況・会社情報

## 会社概要 (2019年9月30日現在)

商号 ホソカワミクロン株式会社  
英文商号 HOSOKAWA MICRON CORPORATION  
創業 大正5年4月18日(1916年)  
設立 昭和24年8月13日(1949年)  
資本金 144億96百万円  
従業員数 369名(単体)、1,656名(連結)

## 役員 (2019年12月17日現在)

代表取締役会長兼社長 細川 悦男  
代表執行役員  
代表取締役副社長 細川 晃平  
副社長執行役員  
常務取締役 木原 均  
専務執行役員  
取締役 井上 鉄也  
常務執行役員  
取締役 猪ノ木 雅裕  
常務執行役員  
取締役(社外) 秋山 聡  
取締役(社外) 高木 克彦  
取締役(社外) 藤岡 龍生  
監査役(常勤) 福井 雄二  
監査役(社外) 國分 博史  
監査役(社外) 荒尾 幸三  
常務執行役員 馬場 武史  
執行役員 花川 忠己  
執行役員 塚田 義員  
執行役員 辻本 広行  
執行役員 日野 厚利  
執行役員 内田 良範  
執行役員 野原 伸介  
執行役員 矢野 浩  
執行役員 立山 栄一

## 株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 19,869,400株  
発行済株式の総数 8,615,269株  
株主数 6,648名

## 大株主 (2019年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清製粉グループ本社	500	6.18
日本マスタートラスト 信託銀行(信託口)	435	5.38
三井住友銀行	282	3.49
東豊産業	273	3.38
細川 悦男	209	2.59
日清エンジニアリング	206	2.55
京都銀行	200	2.47
三井住友信託銀行	200	2.47
自社取引先持株会	180	2.23
日本トラスティ・サービス 信託銀行(信託口)	179	2.22

(注1) 上記のほか当社保有の自己株式523千株があります。  
(注2) 持株比率は発行済株式の総数から自己株式(523千株)を控除して算出しています。

## 株主メモ

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで  
定時株主総会 毎年12月  
基準日 定時株主総会 毎年9月30日/期末配当 毎年9月30日/中間配当 毎年3月31日  
その他必要ときは、あらかじめ公告して定めた日  
公告の方法 電子公告(当社ホームページに掲載いたします)  
<https://www.hosokawamicron.co.jp/>  
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
事務取扱場所 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 0120-782-031  
(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 未配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。  
※配当金は支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと当社定款の定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

### 配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。  
なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主様につきましても配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

「コーポレートガバナンスに関する報告書」を当社ホームページ内の「投資家の皆様へ」のページに掲載しております。

## 株主優待の実施について

当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期にわたり継続して当社株式を保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

### 対象となる株主様

毎年9月30日時点の株主名簿に記載または記録された当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様。

### 株主優待の内容

右記の通り、保有株式数、保有期間の区分に応じて、当社グループ会社(ホソカワミクロン化粧品(株))の商品(化粧品、シャンプー、コンディショナーなど)を贈呈いたします。

### 贈呈時期

毎年1月中旬頃の発送を予定しております。

保有株式数	継続保有期間および優待内容	
	3年未満	3年以上※
100株以上500株未満	5,000円相当	7,000円相当
500株以上	10,000円相当	15,000円相当

※「継続保有期間3年以上」とは、毎年3月末および9月末時点の株主名簿に、同一株主番号で、基準日を含めて7回以上連続して記載された株主様といたします。



15,000円相当の商品

